

マックス・ウェーバー著「職業としての政治」

日経 PB クラシックス・日経 PB 社 2009年2月23日刊を読む

真の人間とは

1. わたしが計り知れないほどの感動をうけるのは、結果にたいする責任を実際に、しかも心の底から感じていて、責任倫理のもとで行動する成熟した人が（若い人が、高齢の人がを問いません）、あるところまで到達して「ルターのように」「こうするしかありません、わたしはここに立っています\*」と語る場合です。

\*ルターが1521年4月のウォルムスの国会で語ったとされる言葉。

2. これは人間として純粋な姿勢であり、感動を呼ぶのです。
3. なぜなら精神的に死んでいないかぎり、誰もがいつか、このような場に立たされることもありうるからです。
4. その意味では信条倫理と責任倫理は絶対に対立するものではなく、たがいに補いあうものであり、「政治を職業とする」ことのできる真の人間を作りだすものなのです。

P153

政治家の資質

1. 政治という仕事は、情熱と判断力の両方を使いながら、堅い板に力をこめて、ゆっくりと穴を開けていくような仕事です。
2. 世界のうちで不可能と思われることに取り組むことがなければ、いま可能と思われることも実現できないことはたしかですし、歴史が示す経験からも、それは確かなことです。
3. しかしこれをなしうるのは、指導者でなければならないのであり、たんに指導者であるだけではなく、素朴な意味で英雄でなければならないのです。
4. そして指導者でも英雄でもない人は、すべての希望が挫折しても耐えることのできる心の強靭さを、今すぐにそなえなければなりません。

5 . それでなければ、今可能であることでさえ、実現できないでしょう。

6 . 現実のうちで貢献しようとしているものと比較して、世界がどれほどに愚かで卑俗にみえたとしてもくじけることのない人、どんな事態に陥っても、「それでもわたしはやる」と断言できる人、そのような人だけが政治への「召命」<sup>ベルーフ</sup>〔天職〕をそなえているのです。

[コメント]

「信条倫理」と「責任倫理」、「情熱」と「判断力」を兼ねそなえてこそ不屈の政治家といえと、私も考える。

- 2009年4月25日林明夫記 -